

## 城山ダムにおける有効で機敏な情報共有の仕組みの構築

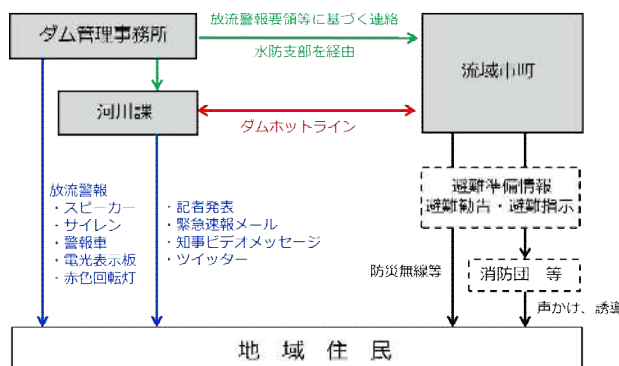
令和元年東日本台風において城山ダムでは運用開始以来初めて異常洪水時防災操作(緊急放流)を実施したが、その際、県と流域市町との情報の受伝達などに課題があったことから、情報共有のあり方について流域市町とともに検証を進め、流域市町との有効で機敏な情報共有の仕組みを構築した。

### ＜防災操作(洪水調節)の状況＞

城山ダムでは、予備放流によりダムの水位を事前に下げ、防災操作(洪水調節)を実施したが、洪水調節容量を使い切る見込みとなり、ダムへの流入量と同程度のダム放流量とする異常洪水時防災操作、いわゆる緊急放流を実施した。



### ＜流域市町等への情報伝達の状況＞



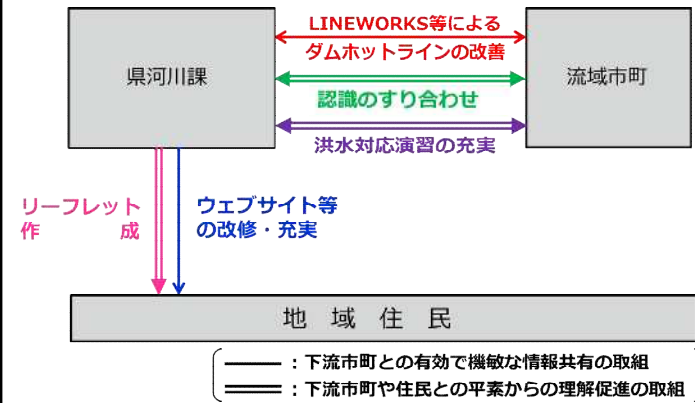
### ＜検証スケジュール＞

- 令和元年10月28日  
意見交換会(現状把握)
  - 令和元年11月5日～8日  
アンケート調査
  - 令和元年12月6日～23日  
個別ヒアリング(担当者)
  - 令和元年12月16日～25日  
個別ヒアリング(首長等)
  - 令和2年2月13日  
意見交換会(とりまとめ案)
- 課題抽出

検証結果	対応すべき課題	取組内容
伝える側の県と受け止める側の市町や県民との間で、防災情報に対する <b>認識が異なっていた</b>	ダムの機能や操作、県からの発信情報に関する認識の共有	県と市町の認識のすり合わせ
	発信する防災情報に誤解が生じないように、伝達内容の見直し	ダムホットラインの改善
	到達時間や水位上昇の目安となる情報の提供	リーフレットの作成
	異常洪水時防災操作に関する情報の住民への周知	LINEWORKSの導入・ウェブサイトの充実
電話連絡に時間を要し、市町にとって重要な防災情報の <b>連絡が遅れた</b>	より迅速に、情報を伝達できる仕組みの構築	洪水対応演習の充実
	視覚的な情報伝達方法の構築	ダムホットラインの改善・ウェブサイトの充実
短時間で、県の複数の部署から情報が入るなど、市町において <b>情報が錯綜した</b>	各ツールの発信するタイミングや項目に関する認識の共有	県と市町の認識のすり合わせ
	県防災部局との連携の強化	ダムホットラインの改善
	最新情報を入手できる仕組みの構築	洪水対応演習の充実
	予測水位に異常値が生じないように、システムの改修	LINEWORKSの導入・ウェブサイトの充実
		ウェブサイトの改修

# 城山ダムにおける有効で機敏な情報共有の仕組みの構築

## ＜有効で機敏な情報共有の仕組みの構築＞



## 流域市町や住民との平素からの理解促進の取組

### 認識のすり合わせ

・様々な機会を捉え、市町長や市町担当者と定期的に、ダムに関する認識のすり合わせ



### 洪水対応演習の充実

・市町長が避難勧告等の発令を判断するといったシナリオを含めるなど、より現実に応じた内容として実施



### リーフレットの作成

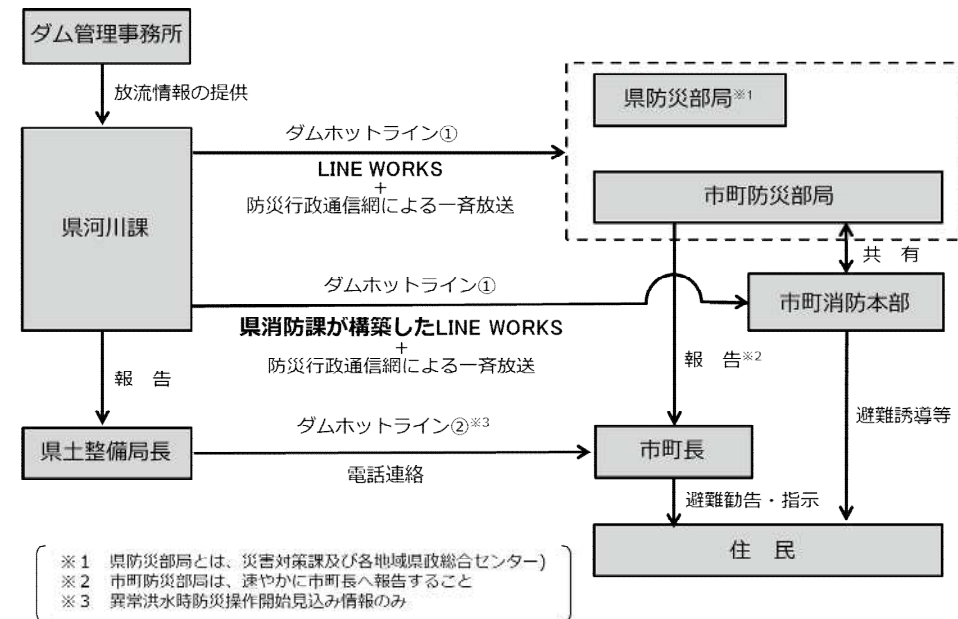
・ダムの機能や水害リスクを知ってもらい、いざというときに慌てず、行動してもらうため



## 流域市町との有効で機敏な情報共有の取組

### LINEWORKS等によるダムホットラインの改善

【改善①】：最新の情報を、迅速かつ正確な情報の共有のため、LINEWORKSの導入



【改善②】：受伝達者、伝達方法及び項目を整理するなど、運用体制の見直し

伝達者	受達者	伝達方法	伝達項目
県土整備局長	市町長	電話	・異常洪水時防災操作開始見込み情報※
県河川課	市町防災部局 + 市町消防部局 + 県防災部局	LINEWORKS + 防災行政通信網	・上記の内容も含め、異常洪水時防災操作に関わるすべての情報 ・事前情報 ・見込み情報 ・3時間前、1時間前予告情報 ・延期、中止情報 ・開始、継続、解除情報

※ダム管理事務所からの申請により移行に関する県土整備局長の承認が得られた段階  
 ※令和元年台風第19号では、開始見込み時間の約5時間前に実施している。

【改善③】：情報量を増やすとともに、しっかり伝わるよう伝達内容の見直し



### ウェブサイト等の改修・充実

・雨量水位情報を発信するウェブサイトの改修やダム情報の充実など、市町や住民への河川情報提供の強化を図る

